

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

＜編集発行＞

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



「八市連携市長会議」と国際園芸博覧会

「八市連携市長会議」とはどういう機関か？

町田市長が参加する「八市連携市長会議」とはどのようなものかと尋ねました。参加する市長は、横浜市（座長）、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、大和市、町田市の市長が参加するもので、有力な相模原市が入っていません。これは横浜市長が中心となって、横浜市と隣接した都市の連携を図る目的で構成されたものだからです。2011年に設立され、最新の会議は2024年でした。その前の開催は2022年となっていました。不思議なことに各会議を通して以下に話題とする話が見当たらないものなのです。

横浜市と言えば、本年開催された大阪万博に続いて国内で行われる国際博である「2027年国際園芸博覧会」の会場となる自治体です。その横浜市は2016年に、その前年に返還された、「旧上瀬谷通信施設」で国際園芸博覧会を開催することの協力を国に求め、2021年に「開催申請について」閣議了解が出たものです。横浜市にとっても国にとっても一大イベントとなるものですが、開催場所は、横浜市の一帯西側（瀬谷区）であり、「旧上瀬谷通信施設」自体には、鉄道駅が無く、2027年開催予定時に開通予定も計画されていません。他方で、想定来場者数:約1,500万人を見込んでおり、交通アクセスが最大の課題になります。



左上の濃青色が町田市で、中央のピンク色が横浜市。「国際園芸博覧会場」は同市瀬谷区内の赤い印の場所。町田市と大和市が一番近い自治体（八市資料）

国際園芸博覧会の会場と未来のステージ

横浜市が座長の会議で、園芸博の交通議論は？

この「旧上瀬谷通信施設」の面積は約248.5haで国有地と民有地がほぼ半々、1割近くが市有地となっており、将来的には地権者との合意で大掛かりな開発が行われる地域となっています。基本は、物流地区、観光・賑わい地区、防災・公園地区、農業振興地区の4種の土地利用が想定されており、人口居住地は予定されていないのが特徴となっていますが、個人的にはこの種の開発において、これだけ広大な地域開発でありながら、それが全く無しで将来的に成り立つものなのか疑問を持っています。



何より、当面の課題は2027年の国際園芸博覧会の開催に伴う交通問題です。瀬谷区内の目黒交差点の立体交差化が行われますが、他は大きくは変わりません。園芸博の開催期間は、地元の瀬谷駅、緑区の十日市場駅、そして町田市のグランベリーパーク南町田駅（及び空港や新幹線駅）とのシャトルバスが主要な大量輸送機関と想定されていますが、鉄道駅の直結が無いと道路の混雑、機能マヒは避けがたいのではないかと思います。（続く）

上の写真：国際園芸博覧会協会のNEWSRELEASE 2023.11.9

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる

町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ



個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第55期生が終了しました。

インターン体験記⑪渡部 結衣

茶道会月例茶会に出席し、高校の文化祭を見学

町田茶道会の月例茶会では、普段なかなか触れることのできない本格的な茶道を体験させていただきました。茶室に一步足を踏み入ると、張りつめた静けさと凛とした空気に包まれ、正座や作法一つひとつに気を配らねばならず、大変緊張いたしました。その緊張感がかえって茶道の奥深さを実感させてくれました。また、吉田議員をはじめ、周囲の方々が丁寧に作法を教えてくださいました。この時間の中では、日本文化が大切にされてきた「おもてなしの心」を感じることができ、貴重な学びとなりました。

次に伺った森村学園の「みずき祭」では、クオリティーの高い出し物を数多く拝見することができました。私は都立高の出身ですが、当初は「やはり、自分の高校の文化祭こそが一番だろう」と意気込んでいましたが、その考えを一部改めさせられる結果となりました。

特に印象に残っているのは、管弦楽部と合唱団の出演です。管弦楽部は「ロッキーのテーマ」を力強く奏でており、その勇壮さに心を打たれました。合唱団のステージでは思いがけないサプライズもあり、私自身も大妻合唱団に所属しているため、共感や刺激を強く受ける時間となりました。



大妻女子大学1年生 渡部 結衣 (56期生)

今年も稲刈りの稲架作業に参加

長靴姿に麦わら帽子を被って出かけました

横浜市の知り合いの農家の方から、「来週末、自分の水田で稲刈りを実施し、稲架掛け作業がある」という知らせをいただきました。場所は私の自宅から車でわずか15分ほどの横浜市青葉区恩田地区でした。秋のシーズンの1日を約30名の人たちと一緒に過ごしました。



横浜市青葉区と言えば、国内の住宅地で最も人気が高いところですが、しゃれた田園都市線の駅前の街作りと、こうした田園風景が一体になった都市景観がその基盤になっているのでしょう。前回までは広いエリアの水田で一区画ずつ稲刈り(二条刈りの稲刈り機を使用)が行われていたのですが、今年は、新たに人から譲られたという水田で稲刈りがあり、その場所で稲架掛け作業に参加しました。その水田は人家がすぐ近くに迫った場所でした。ベテラン参加者は稲架自体を慣れた手つきで組み立てて行く姿が堂に入っている様子ですが、私がその稲架作りに参加するのはまだ数年先のことになるでしょう。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年8月末までに114名が参加しました。

◎2025年4月からIT大手の外資企業に入社し、元気に働いているという元インターン生女子の報がありました。このように女子は外資系企業への入社志向が複数で見られるところです。

*次期のインターンシップは、2026年春季第57期の受け入れで照会中です。